

なぎさ会館の現状と課題について

なぎさ会館は、人生最終の儀式を執り行うのに、ふさわしい区民斎場を区民の利用に供することを目的として平成4年に開館した施設であるが、開館後30年が経過し、区民ニーズが変化し、施設の利用率は低下傾向にある。そのため、令和6年度事務事業評価において、廃止を検討する事業として評価をした。今後の検討にあたり、現状と課題について報告する。

1. 現状

(1) 施設の概要

名称：品川区立なぎさ会館（総延床面積 約 1,294.57 m²）
所在地：品川区勝島3-1-3
規模：2式場（定員各60名）、会葬者控室（2部屋・定員各36名）
 家族控室（2式場・各6畳）、式師控室（2式場 各3畳）
利用料：65,000円
開館日：平成4年4月18日
運営形態：業務委託 委託先 東京都葬祭業協同組合品川支部に委託

(2) 利用状況

平成6年度から、平成17年度までは、年間おおむね400件を越す利用があったが、利用件数は毎年減少傾向にある。（平成16年1月に臨海斎場が開場。）

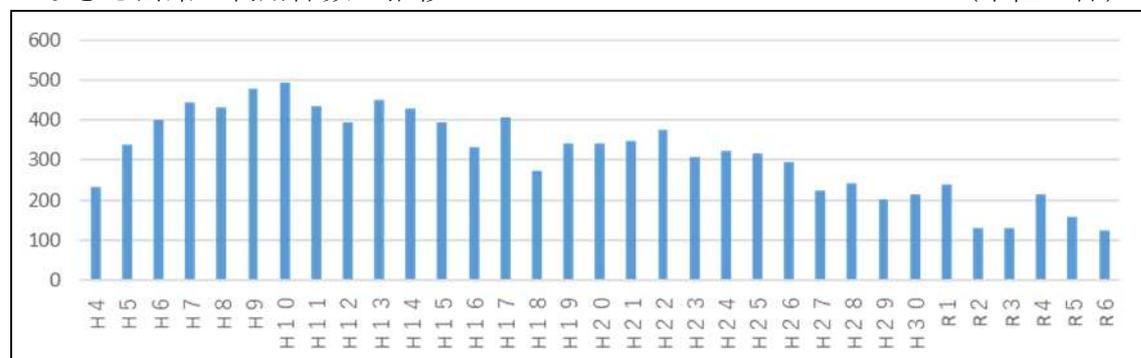
さらに、令和2～3年度のコロナ禍の影響により大きく利用が落ち込み、200件を下回ったが、コロナの影響がなくなった現在においても、利用件数は少ない状態が継続している。

なぎさ会館の利用件数および利用率（単位：件）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
利用件数	240	131	131	214	159	153
利用率(%)	39.7	21.6	21.6	29.5	29.7	26.0

なぎさ会館の利用件数の推移

（単位：件）



(3) 収支状況

利用件数の減少に伴い歳入が減る一方、建物改修や維持管理等により経費負担が発生し、赤字経営が継続している。

(単位：千円)

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
歳入(千円)	15,600	8,515	8,515	13,910	10,335
歳出(千円)	33,315	37,153	63,404	33,928	63,950
差額	-17,715	-28,635	-54,889	-20,018	-53,615

(4) 周辺環境

なぎさ会館から近い臨海斎場では、保冷库(24庫)、式場(4室)、火葬炉(10炉)を備えており、同一施設内で、遺体の保管～葬儀～火葬が完結する。利用ニーズが高く、今後さらに施設の増設※を予定している。

※令和8年1月に式場4室増設、令和12年度に式場4室、保冷库20庫、火葬炉10炉を増設予定。

2. 課題

(1) 利用ニーズの低下

- ・なぎさ会館が開館した30年前と比べ、時代の変化に伴い、葬儀の形態が変化し、1日葬、家族葬や直葬が増加した。さらにコロナ禍を経て、その流れが加速した。
- ・マンション・アパート等の共同住宅で暮らす区民が多く、自宅でご遺体を安置することができないため、保冷库併設の施設(臨海斎場、桐ヶ谷斎場、民間斎場等)の利用ニーズが高い。

(2) 収支の改善が見込めない

- ・利用率が20%台まで低下しているため、利用料収入に対する区の財政負担が重くなっている。
- ・近隣の臨海斎場の式場が、令和8年1月に現在の4室から8室、令和12年度に12室に増えることから、なぎさ会館の更なる利用率の低下が見込まれる。

3. 今後の予定

令和6年度事務事業評価の結果を踏まえ、本事業の廃止について検討する。